

2018年10月6日(土)

第24回諜報研究会(インテリジェンス研究会)

早稲田大学3号館4階405教室

戦時上海の文化工作

上海音楽協会と原善一郎(オーケストラ・マネージャー)

井口 淳子(大阪音楽大学・音楽学)

jiguchi@daion.ac.jp

1 「上海音楽協会」とは

1942年6月、外務省、興亜院、陸海軍の監督のもと、上海在住民間人によって設立された文化工作を目的とした財団法人である。英語名は **Shanghai Philharmonic Society**。協会は工部局オーケストラ(1879年に発足した西欧人楽団)を接收、上海交響楽団(**Shanghai Philharmonic Orchestra**)と名称を変更し日本敗戦まで主催公演を続けた。オーケストラのみならず、上海バレエ・リュス、上海ロシア歌劇団も傘下におさめた。協会創設当初に掲げた事業計画は広範囲におよぶものであったが、いずれも実現されなかった。日本人ダンサー小牧正英はバレエ団員でありつつ協会とバレエ団との仲介を行っていた。

上海音楽協会創設時の役職者

会長 堤孝(在華日本紡績同業会)、常務理事 山田明(日本ビクター)

理事 川喜多長政(中華電影公司)、岩崎愛二(上海放送局)、尾坂與市(大陸新報社)、福田千代作(上海居留民団長)、中村正明(上海交響音楽同好会)

顧問 伊藤隆治(興亜院華中連絡部文化局長)、鎌田大佐(支那方面艦隊報道部長)、横山大佐(支那派遣軍上海報道部長)、川崎寅雄(在上海総領事館情報部長)、大家吾一(興亜院華中連絡部政務局)

職員 清水亘(主事)、高木辰男(主事補)、関文雄

1942年10月までに主事交代、清水亘から原善一郎へ。

2 原善一郎とは

1900年（明治33）12月3日生、1951年（昭和26）9月8日没

長野県上伊那郡中箕輪村に生まれる。横浜松浦商会に入社、ハルビン支社に転勤後ロシア語を修得し若くしてビジネス界で頭角をあらわす。山田耕筰、近衛秀麿に請われ日本交響楽団協会に参加、そののち新交響楽団のマネージャーをつとめる（1926年10月～1935年7月）。同時に、極東一の興行主であるA.ストローク（上海在住、ユダヤ系ラトヴィア人）が招聘したアーティストの日本国内マネジメントを担当。1935年、ストロークとの共同事業のため「国際芸術社」を東京に設立。戦時下にあっては、日本軍によって接收された上海交響楽団（工部局オーケストラ）の主事となり手腕を発揮する（1942年10月～1943年春）。その後1944年5月にハルビン「ヴレーミヤ」新聞社に移る。ハルビンでは朝比奈隆と深く関わる。その縁により戦後は関西交響楽団（大フィルの前身）の専務理事として経営を担当。1951年、ストロークと再びコンビを組んだメニューヒン招聘の実現直前に心臓発作で亡くなる。

原善一郎と特務機関

土居明夫（元陸軍中将）によると「昭和15年初夏の頃私がモスクウから帰って来た時、原さんは参謀本部の嘱託として宣伝の仕事をして居られ、其処で初めて御眼にかかりました。モスクウで知り合いになった三保幹太郎さんが、軍が軽々に対米戦争をやっては大変だと思われた為でしょうが私と会いたいと云う。其仲介に立ったのが原さんであります。それから毎月一度三人で夕食を共にしながら国策に関する事など色々の話をする事にしました。原さんが此の会合を十六日夜会という名をつけられたのです。（中略）私が満州に転出したので此の会合も一年位で惜しくも止めになりました。私がハルビンの機関長をしている時原さんが上海から来られて、久し振りに懐かしい思い出に耽りました。其当時ハルビンの露字新聞ウレーミヤは古い思想で編輯されて居て大東亜戦争を闘っている日本の対ソ施策に副はないように思い、何とか新しいセンスの人を入れて一新したいと思って居た矢先でありましたので、原さんにウレーミヤ社長就任を懇請した処種々ご考慮の末快諾されました。（略）この人事は関東軍報道部などに異論もありましたので、原さんは相当苦勞されましたが、（略）」（『原善一郎君追憶文集』より原文のまま転載、下線は発表者による）

3 原のビジネス・パートナー、A.ストローク Awsay Strok（1875～1956）とは

ユダヤ系ラトヴィア人。1910年代から日本敗戦にいたるまで、およそ30年にわたり上海に居住し、ヨーロッパ、ロシア、米国から50組以上の演奏家、歌手、オペラ団、バレエダンサーなどを招聘し、日本公演を含む「アジアツアー」をプロデュース

スした極東一の興行主（井口 2017）。上海発行の英字、仏語新聞などに自身の名前を冠した数多くの広告、記事が掲載されている。

戦後はニューヨークに事務所を開き、メニューヒンの日本ツアーを皮切りに、ヘレン・トラウベル、ハイフェッツ、シンフォニー・オブ・ジ・エアー（NBC 交響楽団）、らを招聘した。朝日新聞社の村山家に働きかけ大阪国際フェスティバルの開催を促したことが知られている。

4 原のハルビン、東京、上海

ハルビン時代 1918年～1923年

横浜、松浦商会のハルビン支店に勤務。ロシア語を習得。

そのロシア語力がみとめられ山田耕筰と近衛秀麿による「日露交歓交響管弦楽演奏会」（1925年4月～5月）のマネージャーとなる。

新交響楽団時代 1926年10月～1935年7月

新響のマネージャーをつとめる一方、ストロークが招聘する海外演奏家の日本国内マネジメントを担当する。海外演奏家の新響との共演、ラジオ放送出演などに原が協力。

共同事務所時代 1935年～1937年7月

原はストロークと提携し音楽事務所「国際芸術社」を設立、海外アーティストの招聘事業にあたるが、日中戦争開戦とともに停止。ストロークは興行活動をほぼ停止。

上海・ハルビン時代 1942年～1946年10月

原、上海へ。日本コロムビア上海事務所長、さらに1942年、日本軍が接收した上海交響楽団（工部局オーケストラ）の主事をつとめる。1944年5月には原はハルビンへ。ロシア語新聞『ヴレーミヤ』社理事長、ハルビン交響楽団とも関わる。朝比奈隆は上海とハルビン双方の交響楽団で指揮をとった。

戦後 1945年8月～1951年9月

日本敗戦後、軍関係者としてソ連官憲から追われハルビンで朝比奈にかくまわれる。1946年10月に帰国。1950年、朝比奈に請われて関西交響楽団専務理事。戦後最大の外来演奏家、メニューヒンをストロークとともに招聘。メニューヒン到着直前の1951年9月、原、死去。葬儀委員長を近衛秀麿がつとめ、朝比奈隆（関西交響楽団）が献奏する。

5 まとめ — 戦争、外地と近代日本洋楽史

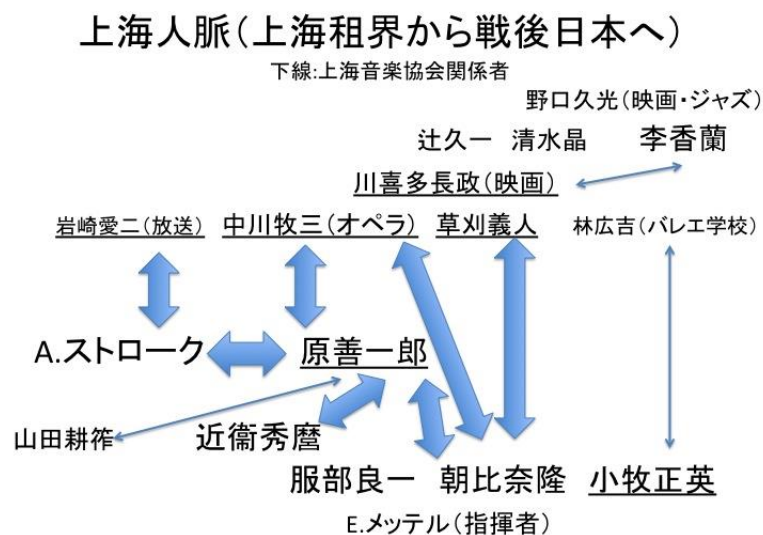
原は日本楽壇の重要な節目で大きな役割を果たしたといえる。一度目は日本初のプロ・オーケストラの誕生に際して、二度目は外地、上海の歴史ある西欧人オーケストラを接収し軌道にのせたこと、三度目は戦後、メニューヒン招聘事業を成功させ、その後の大型外来公演の突破口をつくったことである。日本のオーケストラ史のなかで戦前の近衛秀麿、戦後の朝比奈隆の双方にマネージャーとして協力するだけでなく、朝比奈のキャリアにとってターニングポイントとなった上海のオーケストラを安定的に存続させた。さらに、興行主ストロークの右腕として世界的アーティストのアジアツアーを支えていた。

そのような原善一郎のマネージャーとしての活動やその意義の大きさに比して、正確な情報は非常に少ない。これは盟友、ストロークについても同様である。二人とも交渉や契約の記録を一切残さず（遺族談）、さらに原が上海、ハルビン時代に軍部と深く関わっていたことも活動を評価する妨げになってきた。彼の不幸とは常に戦争とともにあったことであり、幸運とは、その戦争と外地経験が契機となり、楽壇の第一線で活躍しえたことであろう。

日本のオーケストラ史において「戦前の近衛（日響、新響）」から「戦後の朝比奈（関響）」という一本の線を原善一郎がつかないでいたことになる。その軌跡はハルビン、東京、上海、ハルビン、東京、大阪をたどり、ストローク（ラトヴィア、上海、ニューヨーク）と深く交差していた。近代日本の音楽マネジメント史は戦争および外地と深く結びついていたのである。

（当発表は次の科研費による助成を受けた。平成23年度～25年度科学研究費補助金基盤研究B「上海租界劇場文化の歴史と表象-ライシャム・シアターをめぐる多言語横断的研究」（代表者、大橋毅彦）、平成26年度～28年度基盤研究B「1940年代における上海租界劇場芸術の連続性と他地域への展開の諸相をめぐる研究」（代表者、大橋毅彦）、平成29年度科研基盤C「A.ストロークの興行にみる音楽マネジメントの近代」（代表者、井口淳子）

図1 上海楽壇人脈図



引用文献ほか

井口淳子 2017 「A.ストロークのアジアツアー — 上海租界で発行された英字新聞にもとづいて」
『音楽学』第62巻2号：73-85。

岩野裕一 1999 『王道楽土の交響楽 — 満洲知られざる音楽史』 東京：音楽之友社。

大橋毅彦、関根真保、藤田拓之編『上海租界の劇場文化 — 混淆・雑居する多言語空間』 東京：
勉誠出版社

大橋毅彦、趙怡、榎本泰子、井口淳子編 2015『上海租界与蘭心大戲院 — 東西芸術融合交匯的劇
場空間』上海：上海人民出版社。

高木伸幸 1998 「井上靖「貧血と花と爆弾」論 — 真物」の男たちの「熱情」『国文学攷』 159
号、47-60、広島大学国語国文学会。

NHK 交響楽団編 1967 『NHK 交響楽団 40年史』 日本放送出版協会。

原善一郎君追憶文集発行委員 1952 『原善一郎君追憶文集』 (非売品)。

新聞データベースおよび一次資料

ProQuest : Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection, 1832-1956

大阪音楽大学旧音楽博物館所蔵資料

昭和音楽大学附属図書館「小原・堀田写真コレクション」